

メイ琴平～ハープで世界を旅する～⑤

想像を超えた宝島 マダガスカルの魅力 ーバオバブの木、エコツーリズム

一般社団法人 May Music Office 代表理事 **メイ 琴平**

琴平メイ（May Kotohira）ハープ奏者
一般社団法人 May Music Office 代表理事。
福岡教育大学在学中にオーストラリアキャンベラ大学で文化人類学、社会学を専攻。
大学卒業後、青年海外協力隊員として南米パラグアイで女性の自立支援のプログラムに携わる。パラグアイの楽器ハープ（アルパ）に出会い、アルパ教育第一人者に師事。
現在 FM ラジオパーソナリティーで大使館をゲストに文化発信をおこなう。
文化庁採択事業として各国大使館協力のもと文化交流コンサート「音楽で世界を旅するコンサート」を企画主催。文化庁事業で全国の学校での国際交流ハープコンサートを行う。

コンサート」を企画主催。文化庁事業で全国の学校での国際交流ハープコンサートを行う。

学校コンサート ～音楽を通して国際交流を～

2021 年から全国の小中高等学校にハープ演奏を通して文化の多様性を感じられる文化交流コンサートの開催をしています。

2021 年には大阪府泉佐野市立中学校、福島県白河市、岩手県川口市、千葉縣市川市の小学校にて 5 公演開催しました。

2022 年には石川県宝達志水町、福島県白河市、青森県弘前市、熊本県菊池市、千葉縣市川市、宮崎県日向市での開催を予定しています。

コロナの影響でキャンセルになった公演もありましたが、学校コンサートではハープの演奏に熱心に耳を傾けて聴いてもらい、沢山の質問や感想を頂きました。

公演の中でハープの弦に触れて実際に音を出して音の共鳴に触れる時間も設けることで、コロナ禍でも五感を使った体験授業になりました。

また、コンサートプログラムにはハープの歴史や楽器の紹介を入れて、楽器の成り立ちからハープが広がっていった国の話をしています。

様々な国の楽曲をハープで演奏することで、国や文化圏によって音階やリズムが違うこと、音楽を通して多様な文化があることを感じてもらいます。

また、どのような場面で音楽は演奏されるのか文化や風習など説明を入れることで、異文化を理解しながら音楽に耳を傾けてもらうことができます。

小学生は低、中、高学年に分けて発達に応じてリズムをとったり、国の紹介をしたりします。

中学生、高校生向けには、私自身の大学でのオーストラリアの大学交換留学の経験や、青年海外協力隊員に参加し南米パラグアイに赴任したきっかけや、今音楽活動をしている想いについてキャリア教育の観点もいれて話をしています。

音楽を通して文化の多様性を感じ、広い視野で将来の選択肢を広げて頂けたら幸いです。



May Music Office youtube

さて、今回はマダガスカルを紹介します。日本ではバオバブの木が有名ですが、長く白い海岸線が続くシーサイドリゾートとしても有名です。

記事の作成に当たり、ランジャザフィ ツィラヴ マエリゾ臨時代理大使をはじめ、多くの大使館の方々にお世話になりました。以下の記事は臨時代理大使の原稿を筆者が編集したものです。



マダガスカル 想像を超えた宝島

垣間見える島の姿

インド洋の南西に位置するマダガスカル島（フランス語でビッグ・アイランド）は、世界で4番目に大きな島です。面積は587,041 km²で、日本の1.6倍に相当します。海岸線は4,800kmに及び、群島があります。マダガスカルには、2,800万人が暮らしています。世界で最も生物多様性に溢れており、乾季（4月～10月）と雨季（11月～3月）があります。



マダガスカル（地図）
アフリカとアジアの交差点にある島

エコツーリズムの目的地として

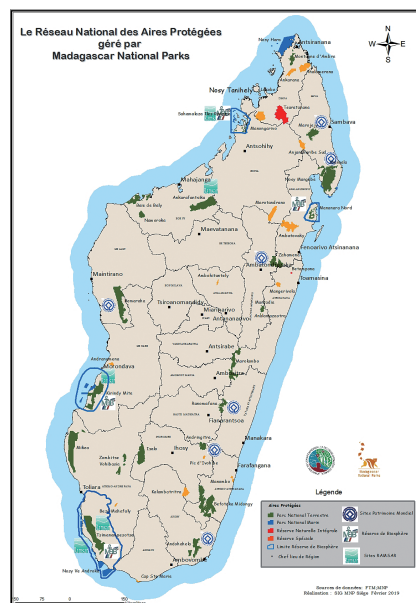
エコツーリズムの旅に最適なこの島は、世界の生物多様性の5%を占める希少な生物多様性を保持しており、自然愛好家を魅了しています。植物相は14,000種に及び、そのうち80%が固有種です。例えば、存在する8種のバオバブの木のうち6種はマダガスカルにしか生育していません¹。また、島の固有動物であるキツネザルも世界的に有名です。野生のキツネザルは、

マダガスカルでしか見ることができず、他の場所では飼育下のみとされています²。

このような類を見ない生物多様性は、国立公園や保護区の緻密なネットワークを通じ繋がっています。

国立公園とユネスコ世界遺産に認定された公園の数々

遺産保護における特別な関心から、ユネスコはマダガスカルの7つの公園を世界遺産として認めています。さらに、マダガスカルにはユネスコが認定する5つの生物保護区があります。これらの場所は、アクセスが困難になる1月から3月の雨季期間を除き、一年中観光客を受け入れています。



国立公園ネットワーク地域と保護地区
© Madagascar National Parks

ワールドクラスのところ

ソフィー・トッド制作の独占ドキュメンタリーシリーズ「Our Great National

Parks」(Netflix シリーズ、2022 年)では、世界遺産に登録されたベマラハのツインギカルスト地形を、世界の自然保護成功事例として取り上げています。

2007年に秋篠宮皇嗣殿下とご家族が訪れた「バオバブ街道」は、世界で最も愛されている天然記念物の一つです。

マダガスカル南西部のモロンダバから19kmに位置し、数十本のバオバブの木が連なる風景は息を呑む美しさです。

この路地では、世界最多のバオバブの木を観察することができます。樹齢800年を超えるバオバブは、かつてこの島で繁栄していた密林の遺産です。

バオバブはまさにマダガスカルの象徴であり、荘厳で神聖な木です。



モロンダバのバオバブ街道、世界でも珍しいアダソンニア・グランディディエリ・バオバブの森

©ONTM

ベマラハのツインギー、マロジェジ山地、キャップ・マソアーラ、ラノマファナ、ザアナム、アンドランジトラ、アンドハヒラ、マナ



ベマラハのツインギー

©ONTM

1 Andasonia Grandidieri, Adansonia madagascarensis, Andasonia perrieri, Andasonia robrustipa, Adansonia suarenzsis and Andasonia za ;
2 主にアイアイ、インドリインドリ、マキカッタ（ワオキツネザル）などが知られています。

ナラアヴァラトラ、そしてノジーアラとノージー・タニケリー海洋公園などは有名です。

マダガスカルは、4,800km 以上わたる白い砂浜、まるで水晶のような輝きと温かい海水の海岸線が続く、有名なシーサイド・リゾートです。

有名なシーサイド観光地

シーサイドの人気スポットといえば、ヌシ・ベーやサント・マリーといった島が挙げられます。マダガスカル北西部のモザンビーク海峡に浮かぶヌシ・ベーは、約320km²の小さな火山島で、楽園群島や小さな漁村が点在する西海岸への航海において出発点として理想的な場所です。

北東にあるサント・マリー島（ノシ・ボラハ）は、かつて海賊の隠れ家だった島で、長さ60km、幅5kmの熱帯の楽園です。

サメなどの外敵から守られたサント・マリー・ラグーンでは、スキューバダイビングや、繁殖期にあたる7月から8月においてはザトウクジラウォッチングが楽しめます。

サントマリー島には緑豊かな植物があります。ラグーンには壮大な珊瑚礁が広がり、手つかずの水中遺産を楽しむことができます。

南部と南西部の海岸線は、カイトサーフィンやサーフィンに理想的なスポットです。トゥリアラ、アナカオ、イファティ、サラリなどの地域では、いまだに手付かくなきめ細かい白砂のビーチが多く残っています。

多様な人種と混ざり合った文化

10世紀にはアラブの商館、そして13世紀にはヨーロッパの商館が設営

され、3つの大陸が交差する「スパイスの道」に位置するマダガスカルは、世界有数の貿易国として知られています。

東南アジア（ボルネオ、西ジャワ）のオーストロネシア系先住民に、9世紀のバントゥー系移民、10～13世紀のヨーロッパ・アラブ系商人や船乗り、そして1895～1960年のフランス植民者が数世紀にわたって世代間交雑を繰り返した結果、現在の居住形態が形成されました。

これらの文化的影響は、言語、習慣、職人技、現地のノウハウ、そして美食にまで反映されています。



ヌシ・ベー、香りの島

© ONTM



7から8月 サント・マリー島、ザトウクジラウォッチング

©ONTM



ラヴァノノでカイトサーフィング

© ONTM

オーストロネシア語を起源とし、アジアからの影響が顕著で、特に母国語であるマダガスカル語 (demonym and adjective) は、マレー語を起源とする言語です。

少なくとも 15 世紀にわたり、マダガスカル人はユニークで特殊なノウハウを培ってきており、その一部はユネスコの世界無形遺産に分類されています。

マダガスカルは、世界的に有名な自然遺産や豊かな伝統文化に加え、農業に適した島であり、優れた農産物の原産地でもあります。

マダガスカルのテロワールから生まれた逸品

800 万ヘクタール以上の耕作地を持つマダガスカルは、インド洋南西部における潜在的農業地として知られており、「サブリージョンの食料バスケット」「穀倉地帯」とも呼ばれています。

FAO（国連食糧農業機関）によると、現在マダガスカルで耕作されているのはわずか 260 万ヘクタール。

また、マダガスカルは南北に広いため（南緯 12 度～26 度）、幅広い気候の恩恵を受けています。

特にバニラ、カカオ、その副産物であるチョコレート、キャビアなどの特産品が有名です。

マダガスカル北部を代表する特産品

バーボンバニラとサンビラーノ渓谷産のカカオ豆は、マダガスカルを代表する商品として世界市場に出回っています。



アフリカとアジアの特徴を併せ持つマダガスカル女性

©ONTM

マダガスカル産バーボンバニラについて

世界には数種類のバニラが存在しますが、マダガスカル産のバーボンバニラは、その風味と香りの豊かさで最高級の評価を得ています。

世界初のバニラ生産・輸出国であるマダガスカル島は、3 万ヘクタールの面積をこの貴重なスパイスの生産に充てています。



マダガスカル産バニラプラニフォリアアポッド
© The Herald Market

マダガスカル Tree-to-Bar 2017 金賞受賞

マダガスカルは高品質の高級カカオを生産しています。その生産の大部分は、北部のアンツィラナナ県アンバンジャにあるサンビラ

ノ渓谷で行われています。

チョコレート業界で 75 年の経験を持つマダガスカルは、2015 年 6 月より Tree-to-Bar という、カカオ豆の生産から包装、チョコレート製造まで全ての行程を行う、非常に限定されたカテゴリーに仲間入りすることができました。



Tree-to-Bar 100% ソフトな食感とフルーティーな香りが特徴 2017 年金賞受賞
© Robert

アフリカ初、唯一のキャビア生産

マダガスカルは、その類まれな気候とテロワールにより、アフリカとインド洋で最初の、そして唯一のキャビア生産地です。

アフリカで唯一のチョウザメ養殖場は、首都アンタナナリボの北60km、標高1,400mのアンバトロアナにあり、チョウザメの飼育に適した自然環境と気候に恵まれています。

養殖場はもちろん、餌となる食材も現地生産、天然物で、管理されています。マダガスカル産キャビアは真正銘の高級品となっています。

4.2トンと推定されるこのマダガスカル的美食、ブラックゴールドの生産は、2019年から始まりました。2021年にはヨーロッパ市場向けに10トンのキャビアを生産し、2029年には20トンを目指しています。マダガスカル産のキャビアは、2023年に日本市場に参入する予定です。

友好平和交流 記念事業

60年にわたり、両国は主権、相互尊重、連帯の原則に基づき、実りある二国間関係を築き維持してきました。

また、マダガスカルと日本は60年もの間、友好的かつ平和的な関係を維持してきました。マダガスカルと日本は物理的に大きな距離がありますが、水田耕作、伝統絹織物、年長者への尊敬といった共通点を持っています。

このような点から、意図せずともパートナーシップが生まれ、共通の課題を通し、関係を築くことができるのです。

様々な分野における協力関係

このように、日本とマダガスカルは協力関係は、農業やインフラ分野での交流による経済発展から、スポーツや観光などの異文化交流、教育や保健などの社会開発といった人間開発の分野まで、多岐にわたっています。そのため、2020東京オリンピック・パラリンピックでは、山口県・岐阜県のホストタウンが主催するスポーツ・観光関連の交流活動に、パンデミック時代からマダガスカルは積極的に参加しています。

安全保障（海上および食料安全保障）、自然災害への備えやリスク管理、パンデミックや気候変動などの災害への対応といった分野は、依然として世界共通の課題であり、連帯感を育んでいます。

これらの課題は、日本が1993年にアフリカ大陸と設立した「TICAD（アフリカ開発会議）」の枠組みの中で、豊かな未来を共有するために、マダガスカルも一員として積極的に取り組んでいます。

2022年は、マダガスカルと日本の友好関係樹立60周年の記念すべき年です。

二国間関係における新たな転機であり、明るい未来への展望を示すものです。

駐日マダガスカル共和国大使館からのメッセージ

投資開放国であるマダガスカルは、観光セクター、ホスピタリティ産業、アグリビジネスに対し、日本からの投資を歓迎・奨励します。特にアグリビジネスは、国内外の食品・飲料分

野にとって不可欠な産業であり、観光産業の支柱でもあります。

マダガスカルには比較優位性があり、日本市場が求める品質基準を満たす、特別で独特な生産物を提供することができます。マダガスカル産バニラは、日本市場において94%のシェアを獲得しており、サクセスストーリーとなっています。

駐日マダガスカル大使館は、日本の旅行者の皆様へ、世界有数のエコツーリズムの目的地としてのマダガスカルを知っていただきたいと思っています。2021年11月以降、ロンドンに本部を置く世界旅行観光協議会から新型コロナウイルス感染症、安全地域認定を受けた旅行先であることを大使館は保証し、一般の方々や旅行会社団体の方々に広く知って頂きたいと考えます。

マダガスカルへの旅行に関する詳細につきましては、ビザセクションにお問い合わせください。

ambamadtyo.cagc@ambamad-tokyo.jp / ambamadtyo.cagc@gmail.com



ランジャザフィ ツィラヴ マエリソ臨時代理大使（前面）と筆者（右）

